

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

井岡勉

はじめに

前号所載、英国グロースター・シャー県下の社会福祉事情の視察研究にひき続き、一九八四年一〇月一〇日から一週間余、英国全社協(NCVO)とカムデン社協(VAC)のアレンジにより、ロンドン、カムデン区の社会福祉事情について視察研究する機会を得た。そのうち今回はカムデン社協(VAC)分についてのみレポートするものとする。VAC以外に訪れた民間福祉団体およびカムデン福祉局については、別の機会に報告する。

1、カムデン区の概況

カムデン区(London Borough of Camden)はロンドン・バラ(特別区)の一つであり、ロンドンの中心部に位置している。南は金融中心地のシティおよび繁華街のウエスト・エンドに隣接し、北は高級住宅街のハムステッドおよびハイゲートまで伸びて

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

いる。およそL形をなし、面積は五、三六九エーカー。長さには五マイル、幅は北部では三マイル、南部末端では一マイルである。六分の一、九〇〇エーカーは、プリムローズ・ヒルをはじめとするオーブン・スペース(公園緑地)である。

カムデン区は一九六四年大ロンドン市(GLC)が再組織されたとき、三つの旧区(ハムステッド、セント・パンクラス、ホルボーン)を合併してできた。

ハムステッドは、富裕な地区で俳優や芸術家が住んでいる。一九世紀のロンドンの発展途上で専門職階層が住みはじめた。社会改良に関心をもつ人びともずっと住みついてきた。社会主義者たちも居住している。

パンクラスは全体として貧しい地区である。産業革命時に鉄道が敷かれ、全国各地と結ぶ三つの主要ターミナル駅(ユーストン、セント・パンクラス、キングス・クロス)が設置された。鉄道建設にともない、英国北部各地から多くの鉄道労働者が来住するよ

図1 ロンドン・バラ区画とカムデンの位置



ロンドン・カムデン社協の組織と活動

うになった。鉄道労働者もまた社会主義の流れをつくり出してきた。目抜き通りのユーストン通り南側には多くの保険会社、金融機関などオフィスが高度に密集している。同通り北側には精密技術、衣服、家具等の伝統工業地帯となっている。

ホルボーンは、シティに接しており、富裕なビジネス、商業地域であるとともに、大英博物館、ロンドン大学本部があつて文教センターを形成している。

カムデンの人口は、一九六四年に二四万九千人であつたが、ここ二〇年間にかなり減少し、一九八四年現在、約一八万人となっている。これは大ロンドン市の都心部人口の効外拡散政策によるところが大きい。この政策によって小企業の家族、技能労働者の家族が流出し、老人と不熟練労働者を取り残されるなどの現象が生じた。

現在、人口の三分の一は単身者（とくに女性）である。年金受給者（老人）は一八％に達している。学童生徒は一五％である。また移民人口は二六％に及び、うち最も大きなグループはアジア人（バングラディッシュ人、中国人）、ついでアイルランド人、トルコ系ギリシャ人、アフリカ人等と続く。

カムデンは貧富の差が激しく、労働の種類も多岐にわたり、労働者、芸術家、老人、子ども、各移民集団等々、多種多様な住民の混合地域である。カムデンは二六地区に分か

れている。

カムデンの社会問題としては、青少年問題、失業者問題（失業率一四・六%）、住宅問題が大きい。これらは民族差別とも深く結びついている。もしバングラディッシュの家族が白人の居住地区に家を建てたならば、石を投げられたりすることもあるという。このほかの差別形態として、女性差別が雇用条件などにみうけられ、また近年老人がスケープ・ゴート化されるなど老人差別も目立ってきている。

大都会では近隣関係の活動を起こすのは困難だとされるが、カムデンは例外ともいえる。カムデンには三百〜四百もの民間団体があつて活発に活動している。これは歴史的に富裕な人たちが活動しうる時間を有して、コミュニティ感覚（近隣に対する責任）と社会的関心から社会改良運動にかかわってきた伝統を背景としている。二〇世紀前後からは労働者階級による運動が発展するようになった。労働者階級は次第に中流化しつつあり、地域活動についてもリーダーシップを担うようになってきている。これらの社会活動志向は、広い意味でソーシャリズムと結びついてきたといわれる。

カムデン区議会は六〇名の議員で構成されるが、現在の内訳は労働党三二、保守党二八である。区議会議長（区首長）は労働党議員、労働組合出身の女性である。カムデンの課税対象評価額は一億八百万ポンドで、パーミンガム、ロンドン・シティ、ウエスタミンスターに次ぐ。区当局は六、七七〇人を雇用している。

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

カムデンは民間社会福祉とともに、福祉行政面でも先進地区である。また区内に著名な病院が多い（Great Ormond Street Hospital for Sick Children, University College Hospital, The Royal Free Hospital 等々）。

2、カムデン社協（VAC）の組織と運営

(1) VACの性格・機能

カムデン社協は、英国において二百カ所をこえる都市型の社協としての Councils for Voluntary Social Service (CVSS) の一つである。以下VACの性格、機能、沿革、組織・運営、財政、事業活動等について、VAC一九八三/八四年次報告書等とヒアリングにもとずいて順次記述し、考察を加える。

カムデン社協の正式名称は Voluntary Action Camden, VACである。一九八四年改称されたばかりである。それ以前の名称は Camden Council of Social Service, C C S Sであった。VACという名称は、組織が実現すべき役割を表現しているとされる。親しみやすいが、従来とは劇的に異なる任務のために与えられた新しい名称である。日本語に訳し難いが、直訳すれば「民間自主行動カムデン」ともなるうか。オックスフォード英語辞典によれば、「Voluntary」とは、「強制ではなく、自分自身の自由意志から行動すること」とある。それは「目的、意図的」である。それは、自由な市民の、大義またはコミュニティに対する関与 (commitment) であるとうけとめられている。カムデンはコミュニ

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

ティ関与の長く誇らしい歴史を有している。“Action”とは、大義あるいはコミュニティのための、“エネルギーの発揮”(前記オ英辞典)である。VACはカムデン区とその住民の福祉をめざして、自由にかかわっている、とVACでは自認している。

新しい名称はまた、“社会サービス”(social service)と、より狭い概念をこえた、住宅、雇用、教育、エコロジー、計画、犯罪、人種関係および現代都市の生活を構成するあらゆるファクターに関する民間部門の関心を反映している、と解されている。

VACは民間自主組織である。VACの機能は四つある。第一は区内の民間努力を調整し、情報を提供し、支援することである。そして必要な場合、法制が及ばない分野での主導活動を開発し、あるいは他団体がそれを行えるようにする。第二は、区自治体と他の法制機関および民間部門との建設的共働関係を促進することである。第三は、コミュニティに対して一定の直接サービスを提供する。そして第四は、社会的政策(social policy)の形成に貢献することである。

(2) VACの沿革

前述したようにカムデン住民は隣人のための援助についてきわ立った歴史を共有している。一九世紀後半以降、オクタヴィア・ヒル(Octavia Hill)、ヘンリエッタ・バーネット(Henrietta Barnett)からヘンリー・メイヒュー(Henry Mayhew)、チャールズ・ディケンズ(Charles Dickens)に至る多くの著名社会改

良家たちは、ロンドン北西部の当先端部に深い関心をよせた。セント・パンクラスおよびホルボーンは、産業革命の社会的衝撃を痛感する最初のロンドン・バラに属していた。一八六八年、ハムステッドの人びとは貧困者の状態を改善するため、慈善組織協会(Charities Organization Society, COS)を創設し、慈善活動の調整を行った。しかし、COSは必ずしも民主的な組織とはいえなかった。

一八九〇年以降、百以上の民間団体が設立され、それを調整する民主的組織結成の必要性が次第に高まっていた。こうして一九〇六年、ハムステッドの社協組織(のちの Hamstead Council of Social Services, HCSS)が設立された。その役員は投票によって選出された。この試みは英国社協のなかで最初のことであったという。ハムステッド社協をつくった人たちは、NCVOやロンドン社協づくりにも乗り出していった。

時代は下って一九六四年、ロンドン・バラの再組織化があった。社協もまた区自治体の範囲と同じに広げて再組織化された。しかし、これには反対があった。その理由の一つは、ハムステッド社協は伝統があり、解散には反対だというものであった。いま一つは、ソーシャリストの多い地区において、貧しい人の救済は民間レベルであるべきでなく、国の責任ですべきだという理由から、民間組織のカムデン社協をつくるのに抵抗があったのである。

これらの反対に対して、時間をかけて推進派による説得が行わ

れ、CCSSは組織された。説得内容としては、①ハムステッドには二つの心配ごと相談所があるが、他の地区にはない、②インフォメーションは民間組織の方がよりよい場合がある、等が伝えられた。ソーシャリストたちの説得には、区自治体議員らが当たった。設立については区自治体が資金補助をした。大ロンドン市 (GLC) レベルの社協に対する補助を上まわる補助額であった。

それ以来政治力学のなかにまきこまれつつ、CCSSは主体性を守り、拡大してきた。そして一九八四年、CCSSからVACへと名称変更された。このようにVACはHCCSS発足より数えて八〇年の歴史を刻んできたのである。

(3) VACの組織と運営

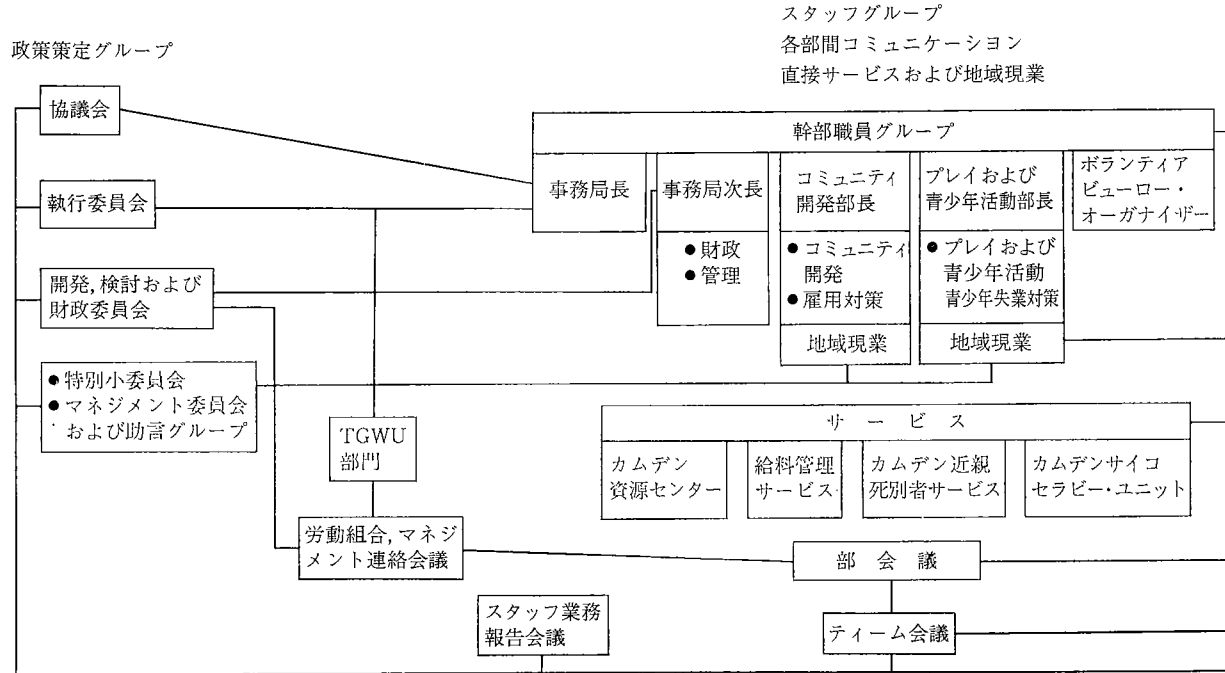
VACのポリシー、運営およびコミュニケーションの構造は図2のとおりである。VACの組織はポリシー作成グループとスタッフグループに大別される。前者は協議会 (The Council) が議決機関であり、その総会 (AGM) 選出委員を主体とする執行委員会 (Executive Committee) が執行の責任を負う。その下部委員会として開発・再検討および財政委員会 (Development, Review & Finance Committee) と複数の専門家小委員会 (Specialist Sub Committees) マネジメント委員会 (Management Committees) および助言グループ (Advisory Groups) がある。スタッフ・グループとしては、協議会および執行委員会に対し

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

てスタッフ部門を代表して業務の責任を負う事務局長 (General Secretary) のもとに、事務局次長 (Deputy General Secretary) のもとに、事務局次長 (Deputy General Secretary)、財政および管理部門所管、コミュニケーション開発部長 (コミュニケーション管理促進部門、地域現業所管)、フレイおよび青少年活動部長 (フレイおよび青少年活動および青少年失業対策・地域現業部門所管)、およびボランティア・ビュロー・オーガナイザーとで幹部職員グループ (Principal Officers' Group) を構成する。またこれに付属する直接サービス部門としては、カムデン資源センター (Camden Resource Centre)、民間職員給与管理サービス (Salaries Admin Service)、カムデン近親死別者サービス (Camden Bereavement Service) およびカムデン心理療法ユニット (Camden Psychotherapy Unit) がある。スタッフ部門内では各部職員会議 (Departmental Meetings) があり、また日常的にはティーム会議 (Team Meetings) がある。マネジメント委員会・グループに対してスタッフが業務を報告するスタッフ報告会議 (Staff Report Back Meetings) も開かれる。

さらにポリシー作成グループとスタッフ・グループとの間にあつて、スタッフ労働組合およびマネジメントとの連絡会議 (Union/Management Liaison Meetings) が設置されている。予算編成や活動方針の形成に当つて、このように労働組合が参画する協議システムが設置されていることは、日本の社協では皆無とつてよいが、英国ではカムデンのみならず他にもみうけられる。こ

図2 カムデン社協 (VAC) 政策・マネジメントおよびコミュニケーション機構



資料出所: VAC 1983/84 Annual Report.

の協議システムのなかで、労働組合がクレームをつけたり反対したりもするが、最終的には調整される。組合は決められたことに對して関心と責任をもつ。組合員、スタッフ両面からかわるることにより、現実の認識ができるという。

次に組織機構の内訳をみると、まず協議会は加盟民間団体からの代表九八名と区自治体からの任命六名、それに関係機関等の兼職メンバー (Ex-Officio Members) 二二名で構成される。加盟団体代表、区自治体任命者には投票権がある。協議会には次のような名誉役員がおかれている。会長 (President) は区自治体首長 (The Mayor Camden) で、同議会議員のバーバラ・ヒューズ (Barbara Hughes) さんである。副会長はルイジ・デンザ (Luigi Denza) 氏とヒックリー・タッカー (Cliff Tucker) 氏の二人である。議長 (Chair) は民間人のトニー・クラーク (Tony Clarke) 氏、副議長は会長のバーバラ・ヒューズさん、名誉法律顧問 (Hon Legal Adviser) ジェフリー・ゴッドマン (Geoffrey Godman) 氏、名誉収入役 (Hon Treasurer) ニック・ローチ (Nick Roach) 氏である。事務局長はパム・ウォレン (Pam Warren) さん、次長はグラハム・トウプ (Graham Tope) 氏である。自治体首長会長であるが、会長職は文字通り名誉職であり、実質的に議長が組織の民間自主性を代表しているようである。

なお加盟団体の特徴として、教会はじめ宗教関係が約四分の一を占めていること、団体の分野ではコミュニティー団体・施設、老

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

人、障害者、医療・患者団体、家族・相談事業、少数民族関係、住宅・環境、教育、芸術、商工関係、社会奉仕団体、国際関係等々、多岐にわたることなどがみうけられる。

執行委員会は、協議会総会で選出された一四名を主体に、区自治体よりの任命六名、委員会選出メンバー五名、兼職メンバーから成る。前三者のグループは投票権がある。総計二五名。委員長は協議会議長のT・クラーク氏、副委員長は協議会会長、副議長のB・ヒューズさんである。書記は事務局長のP・ウォレンさん。

開発・再検討および財政委員会 (DRFC) は、執行委員会に對してVACのマネジメント全体に責任を負うもので、一九八三年設置された。一一名で構成され、委員長は協議会名誉収入役N・ローチ氏、書記は事務局次長G・トウプ氏である。

事務局本部はユーストン通りからジュウドウ通りを南へ四筋目、タビストック・ブレース通りの西北側に位置している。古い三階建てビルに事務局があり、事務局本部とサービス部門あわせて三〇名のスタッフが勤務している。さらにコミュニティー開発およびブレイ・青少年活動部門の出入に勤務する地域現業スタッフは五五名、計八五名を擁している。行政からの天下りはなく、若手・中堅職員が多い。事務局長のP・ウォレンさんはハンブシャー生まれ、二〇才の時にロンドンへ来た。以来民間部門に従わり、VACには一九六六年以来一八年間勤め、VAC拡充の推進力となってきた。笑顔を絶やさず、温厚であるが、民間自主のス

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

ピリットにあふれた手腕家で、多忙をきわめている。

(4)財政

VACの一九八三・八四年度総資金収支決算は表1の通りである。収支額はいずれも一二万六九三五ポンドで、前年度より一・三七倍増えている。積立金繰入れ後の年度欠損は八〇ポンド、八三年四月一日現在残高八〇ポンドで、八四年三月三十一日現在残高は0である。

収入の部では補助金が八六・五%に達する。前年度より一・三六倍増えている。補助金の内訳(表2)は、カムデン区が最も多く七一%、ついで国のマンパワー・サービス・コミッション(MSSC)二五・八%である。大ロンドン市(GLC)、インナーロンドン教育当局(ILEA)、ロンドン・アドベンチャー・プレイグラウンド協会(LAPA)の分はあわせても三・一%に過ぎない。

寄贈施設(評価額)は九・五%である。なおこの評価額は収支勘定両方に含まれている。その他の収入は四%であるが、その内訳は会員団体からの会費、寄付、資金造成、利子、投資収入を含む。みられるように民間自主財源がきわめて少ない。

支出および積立金への繰出しでは、部門別支出経費が九八・二%に達する(内訳は表3参照)。残余は一般経費(保険料、監査費)、一般基金への繰出しである。部門別経費総額の費目では人件費が最も多く、七〇・二%を占める。借上料、水道および地方

税支出が九・一%、サービス費(電話、ガス、電気等)が三・五%、業務所要費(郵便、印刷、紙、会食、旅費、催物等)は一七・二%である。スタッフの給料は区自治体職員と同一基準である。そうしなければ、すぐれた人材を得られないからである。

行政からの補助金に大部分依存していることについて、安上がり福祉やコントロールの危険性はないかとウォレン局長に質問したところ、次のような答えが返ってきた。「そういうことのないようにしっかりと監視していく。委託事業などを逆に利用する柔軟性が大切である。そして時間をかけて信用と高い評価をうける仕事をしていくこと、行政からのプログラムについても選択し、自らのものとして考え出し、自立していく力をつけることが民間として問われる。官僚の思考様式をよく知り、それに初めはあわせながら変えていくのだ。そのため基盤をうんと広くすることが重要である。勝手につつ走っては信用されない。」「補助金に依存していても、区自治体に批判を加えたり、必要な政治活動もする。緊張関係はある。区はVACに対して神経質にもなる。しかしVACは力がないからこそ力をもっているというパラドックスがある。」柔軟でしたたかな民間の姿勢といえようか。

VAC一九八四・八五年予算は、インフレの上昇率五%増のみの予算を組んでいる。新事業や予算増の予算は組める余裕はない。すでに国、自治体の予算削減の影響は随所に表れてきている。加えて、区自治体補助金に大部分依存しているVACの財政運営の前途には重大な危機の到来が懸念されている。それは「レ

表1 カムデン社協1983年度総資金収支決算会計

	1983年度	1982年度
収 入	ポンド	ポンド
補 助 金	1,061,141	782,850
寄 贈 施 設	116,211	48,714
資金造成を含むその他収入	49,573	55,390
開発基金からの繰入れ	—	10,582
	<u>1,226,935</u>	<u>897,536</u>
支出および積立金会計への繰出し		
各 部 経 費	1,204,436	881,585
一 般 経 費	6,544	6,557
付託基金積立金への繰出し	—	8,919
開発基金への繰出し	—	—
指定基金への繰出し	—	783
一般基金への繰出し	15,955	—
	<u>1,226,935</u>	<u>897,844</u>
積立金会計への繰出し後の年度余剰（欠損）	(80)	(308)
1983年4月1日現在残高	80	388
1984年3月31日現在残高	<u>0</u>	<u>80</u>

資料出所：VAC 1983/84 Annual Report.

表2 カムデン社協1983年度補助金収入内訳

	1983年度	1982年度
	ポンド	ポンド
カムデン区	754,559	617,141
インナーロンドン教育当局	1,545	4,264
ロンドン・アドベンチャー・プレイ グラウンド協会	16,544	15,306
マンパワー・サービス・コミッション	274,033	124,333
大ロンドン市	14,460	21,806
	<u>1,061,141</u>	<u>782,850</u>

資料出所：VAC 1983/84 Annual Report.

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

表3 カムデン社協1983年度各部経費内訳

	給 与 (ポンド)	借上料・水道・ 地 方 税	サー ビス 費 *	所要経費 **	1983年度 総 計	1982年度 総 計
プレイおよび青少年活動部						
本 部	37,698	7,244	2,777	4,873	52,592	44,580
バークヒル	72,704	215	2,766	4,062	79,747	67,810
ベックウォーター	55,296	67	1,451	6,435	63,249	55,448
プロット10	60,105	200	1,953	5,070	67,328	60,357
輸 送				7,772	7,772	8,004
アデレード・ロード・プロジェクト	19,538		994	12,840	33,372	39,651
カムデン・ベンチャーズ	170,488	22,757		118,278	311,523	75,916
コミュニティ・カムデン						44,325
プレイ・ストラクチャーズ・プロジェクト						18,217
少女たちのための資源および情報	15,186		182	3,137	18,505	5,069
カムデン・プレイボックス	24,984	1,715	33	3,659	30,391	—
ベックウォーター・プロジェクト						9,208
コミュニティ開発部						
本 部	23,994	3,293	1,204	2,572	31,063	23,763
ベッドフォード・ハウス	20,629	20,508	4,095	3,400	48,632	46,536
カムデン・タウン	36,089	3,834	3,250	4,300	47,473	40,045
インクワイヤー	35,182	1,486	2,256	3,017	41,941	31,999
モルデン・ロード	52,598	8,146	5,362	3,916	70,022	58,674
ミルマン・ストリート	24,330	6,388	728	2,881	34,327	24,360
トルマーズ・スクエア	5,918		2	17	5,937	—
雇 用 開 発	11,742	1,975	537	1,629	15,883	13,491
地 域 組 織 化	53,828	7,903	6,460	11,024	79,215	68,608
財政および管理運営	66,312	10,317	4,212	5,034	85,875	74,175
対人相談センター	36,691	5,049	1,171	1,418	44,329	38,879
ボランティア・ビューロー	18,188	6,146	2,043	1,220	27,597	22,189
CEPワーカー						4,539
近親死別者プロジェクト	4,326	1,976	585	776	7,663	5,742
	845,826	109,219	42,061	207,330	1,204,436	881,585

* 電話、電気、ガス代など。 ** 郵便料、印刷代、紙代、会食費、旅費、催物など。

資料出所：VAC 1983/84 Annual Report.

イト・キャッピング”(rate capping)問題である。それは政府が地方自治体に対して、地方税の収入の無制限な増大をおさえ、きびしくコントロールしようとするものである。すなわち、政府の示した基準に対して、二〇%オーバーすれば法律違反となり、自治体議会と執行者が責任を負わねばならない。そして中央政府が管理者を派遣して統制に当たってくる。この対象が二〇自治体あり、その一つがカムデンである。カムデン区は、法律によれば予算凍結になるので、八五年四月には資金がストップされる。しかしこのような事態になれば大混乱を来し、中央も困るので、目下区と中央の間で話し合われているとのことであった。ウオレン局長は、「たとえ予算凍結になっても、われわれは生きのびてみせる」と意気さかんであった。

3、V A C の媒介的役割

媒介的役割 (intermediary role) とは、『開発、他の団体へのサービス、連絡、代表および直接サービス』(Wolfenden) と規定されるが、これはV A C に課せられた重要任務の一つである。

(1) V A C 祭り

一九八四年はV A C が新スタートして二〇周年に当るが、これを祝い、カムデン民間部門振興への意気を示すため、同年一〇月一〇日夜、カムデン・センターでV A C 祭りが年次総会をかねて開かれた。幸いわれわれはこの行事に招かれ、楽しい雰囲気を実

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

感することができた。

祭りは民間団体の展示、音楽、軽食、飲物が用意され、百以上のグループが参加、交流した。祭りはN C V O 事務局長 (当時) ニコラス・ヒントン (Nicholas Hinton) 氏の式辞でオープンした。年次総会のなかで、カムデン区首長は、レイト・キャッピングにより民間団体が重大な脅威をうけると予測される状況にかんがみ、カムデン区議会とパトリック・ジェンキン (Patrick Jenkin) 環境省長官に対して、民間部門への資金援助を少なくとも現行レベルに維持するよう献身してほしい旨の要請を発表した。

この祭りはカムデン民間部門の幅広さ、価値および多様性を伝え、いま何か危機かを示す好機となったようである。このあと一月にスイスコッター図書館で二〇日間、カムデン民間部門展が開かれた。ちなみにカムデン民間部門は、前述のように約四〇〇グループであり、またボランティアは毎月総計七万時間活動している。カムデン民間団体には、六市民相談所 (C A B)、四〇コミュニティ・センター、六プレイ・グラウンド、四〇就学前プレイ・グループ、三二障害者グループが含まれ、その他数百の諸活動を展開している。市民相談所だけとってみても、八三年中に一万七六八二件の相談を扱っている (住宅二万六五〇〇、社会保障二万五千件、消費者問題一万九千件、失業九千件)。

(2) レイト・キャッピング対策

一九八四年に入って、前述のレイト・キャッピング問題が地方

自治体を困惑させてきた。これが実施されると、行政サービスは大幅カットされ、民間団体への補助金も減額され、場合によってはゼロになってしまうといわれてきた。そこでカムデンの六八民間団体は、この法案が自分たちの対コミュニティ・サービスに及ぼす影響について重大な関心を表明するとともに、政府に対して、地方自治体が少なくとも現行レベルの民間サービスへの資金援助をすることを認めよ、と要求する決議を採択した。

同年春にはVACは民間団体に事態の展開を知らせる緊急ニュースを発行し、この法案が法律になればカムデン民間部門が陥ると予測される窮状を伝える一連の精力的活動を開始した。関係各方面への要請手紙戦術も行われた。そのなかでP・ジェンキン長官からの返書には、「自治体は民間部門に対して責任ある態度をとることを望む」とあったが、彼は運動代表と面会しようとはしなかった。上院の地方メンバーたちは、カムデン民間団体の要請団に應對し、後に忠実な友人となった。

三月末にはVACと区議会との特別集會が開かれ、これにカムデン選出下院議員、区議会与党リーダーおよび野党リーダーも出席し、それぞれレイト・キャッピングと民間資金援助の問題に対して所信を述べた。このあと、「民主主義の日」(Democracy Day)が設けられ、VAC旗をかかげて多くの民間団体をはじめ街頭行進した。また上院では後の修正案(民間団体にレイト・キャッピングの決定に対してアピールを求める権利を与える)に結びつく大議論が行われ、ほんの短い一筋の希望の光となった。

しかし、七月にはカムデンはレイト・キャッピングの対象になるとの発表がなされた。カムデン区は、これにアピールしないが、地方税を固定するのは拒否するかもしれないと決定した。

VACの執行委員会は、民間団体の検討会を主宰した。これはカムデン民間団体内での進展状況をモニターし、連絡を密にし、相互の支援体制を確立するためである。カムデン労働党とカムデン自治体労働組合(NALGO)はともに、補助対象団体を含めて、サービスと仕事については削減しないとの方針を宣言した。

この公約はVAC議長T・クラーク氏により歓迎された。同議長は「公私両部門はサービスを最も必要とする区民に対して、これを供給することに関して相互補完的である。われわれはこれらサービスの浸食に反対する区議会を支援するだろう。」と付言した。

(3) 大ロンドン市(GLC)廃止問題対策

大都市広域自治体を廃止しようとする政府の法案(“Streamlining the Cities” Bill)によるGLCの廃止問題は、カムデン民間部門とロンドン全体の民間団体に一層の混乱をもたらした。

カムデンにはGLCの補助をうけている民間団体が一一六あり、うち六六はこれに全面依存している。さらに多くの民間団体はインナーロンドン教育局(ILEA)から児童・青少年活動に対して補助をうけている。そのILEAはレイト・キャッピングの対象に予定された。

減少する資金の造成対策として、民間部門は企業・産業界にも

つと要請すべきだという提案もあるが、最近のチャリティ援助財団の報告では、過去三年間に会社の税込み総利益は四兆ポンド増に達するにもかかわらず、民間への寄付はわずか三百万ポンドしか増えていない。私的個人の寄付も実質では一九七五年の六億八四〇〇万ポンドから一九八〇・八一年度には八億九一〇〇万ポンドへとあまり伸びていない。

しかし、民間団体がG.L.C廃止の見込みを落胆視するのはただ財政的理由からだけではない。多くの団体はロンドン・グループの部分であり、ローカルおよび全国レベルはもとより、地方(County) レベルの政府にも関係をもつ必要があると考えている。一つのロンドン特別区をこえる事業活動はどうなるのか、ロンドン全体のために誰が計画し、発言するのか、疑問・不安は広まっていた。

V.A.Cはロンドンのために選挙された戦略的当局を保持しようとする努力に深くかかわってきた。ロンドン社協(London Voluntary Service Council)のロビー・グループの一部として、政府長官と役人たちに対して、ロンドンは七百万人の住民であり、共同の発言権を必要とすると訴えてきた。嘆願は大いに丁重にうけとられたが、この巨大都市における社会的ニードの複雑さについては、理解が殆んどないように感じられたという。

(4) 区自治体の民間団体援助政策の見直し

過去二カ年間にカムデン区は民間部門に対する補助金を五九%

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

増やした。八四年九月には区自治体の民間団体援助政策を見直すため、地方政府問題研究所(Institute of Local Government Studies, I.N.L.O.G.O.V.)が招かれた。見直しの結果、公私部門のコミュニケーションの改善につながる提案が出された。すなわち、規約改正され、改称された補助金援助ユニット(Grants Support Unit)によって、補助を求める全民間団体のために情報とアドバイスを得やすくするということが、また資産サービス専門官(Property Service Officer)が、土地・家屋を見つけ維持することと絶えず奮闘している民間団体を援助し、さらに財務専門官(Finance Officer)が会計および記録についてアドバイスするというものであった。この見直しではまた確立団体に対する三年間の資金援助の提案をした(このアイデアは最近の財政危機により犠牲となった)。

地域性とサービスの種類による資金補助の配分は、区自治体のニード優先順位——婦人との協働、人種差別との闘い、社会状態の改善、レクリエーションおよびコミュニティ開発のためのよりよい供給——に反する調節がなされていた。そこでこの見直しでは、区自治体がこれらの分野の活動を奨励するため資金補助用途を指定すべきだと提案した。

この見直しでは、民間部門で活動している媒介団体の役割に多くの注意が払われた。強いコミュニティ活動を可能にするため必要な開発事業と資源援助の隠れた機能について、認識が示されたのは殆んどはじめてのことであったという。V.A.Cでは民間団体

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

とカムデン区議会議員および関係吏員を混合した研究集会をもつて、この見直しの具体化について検討を続けた。

(5) カムデン・コミュニティ・ワーク・フォーラム

一九八三年度当初に、VACはカムデンの全コミュニティ・ワーカーの集会を開き、それがこのフォーラムの結成（八三年六月）に導いた。これは、カムデンのコミュニティ生活を援助し発展させるコミュニティ・ワークの推進を担う、公私両部門の人たちで構成される助言グループである。フォーラムは、コミュニティのなかの不利益集団に関心を集中している。フォーラム・メンバーたちは、地域住民に対して、代弁者を通して意見を述べるよりも、自分たちで直接発言するよう奨励している。フォーラムの目的は次の通りである。

①カムデンのコミュニティ・ワークの全体像を確立維持し、情報の共有、訓練の開発、その他の手段を通して既存活動のよりよい実践を推進すること。

②地域集団やコミュニティ・ワークに影響を及ぼす社会開発を考察し、この諸開発に関する討論と行動を励ますこと。

③カムデンのなかで、既存の実践が地域住民のニーズを充足していないところでの、コミュニティ・ワークの改善を推進すること。

④カムデン区のコミュニティ開発政策のためのキャンペーンを含め、カムデンにおけるコミュニティ・ワークへのより調整

のとれたアプローチを発展させること。

フォーラムは、さきのINLOGOVによる公私関係の見直しに対してもコメントを加えてきており、またコミュニティ・ワークと分権化についても言及してきた。それは、コミュニティ・ワーカー間の業務関係の改善を推進した。VACではこのフォーラムの事務局を担当している。

(6) 給料管理サービス (Salary Administration Service)

VACの財務および管理部では、わずかの料金でカムデンの民間団体のためにスタッフの給料支払いを管理し、またその税金、国民保険および法則上の疾病支払い記録をも扱っている。このサービスは一九八三年四月以来、区自治体の民間部門に対する援助増大の結果もあって、著しく増大した。一九八三年四月にはVACは一四〇人のスタッフを雇用する団体に代わって、一カ月九万三千ポンドを支払った。一九八四年七月までに、それは二七〇人のスタッフを雇用する六一団体に代わって、一カ月一七万六千ポンド（年間三百万ポンド近い）に増大した。

このサービスの利用にともない、スタッフ雇用に関連する多くの問い合わせがくるのは必然である。そこで同部では、予算作成や会計帳簿記帳、雇用条件、保健および安全等々の事柄に関して、照会者を援助し、助言している。

(7) アーバン・エイド・プログラム (Urban Aid Programme) これは環境省のプログラムで、民間団体のための数少ない長期資金補助源の一つである。毎年四〜五件のカムデン・プロジェクトが認可されるに過ぎないが、認可されれば五カ年間補助される。これは民間団体の将来計画をたてやすくし、加えて建設勘定や休職事業計画も補助対象となる。そこでVACでは資金補助を申請する民間団体のために年次検討会を開き、プログラム全体についてもコメントしている。補助総額は過年度のインフレに追いついていないが、民間部門にとって貴重な資源であることは間違いない。

(8) カムデン資源センター (Canden Resource Centre) これは一九八一年にVACに設置された。多くの小団体が支払可能な範囲で印刷することに困難を感じていたからである。センターでは複写、印刷、タイプ、校合、ホッチキスとじ、貸ルーム等のサービスを格安で提供している。使用団体は一五〇をこえ、事業は拡大している。特別のスタッフは配置していない。このほかVACの地域施設五カ所でも複写や貸ルーム、銀幕プリンティング等のサービスを行っている。

(9) 失業対策

増大する失業問題へのVACの関心は、執行委員会の特別小委員会によって調整されている。その活動は、MSCの青少年訓練

計画、「カムデン・ベンチャーズ」の運営、およびVAC失業対策アドバイザーによる、民間部門の失業者援助活動の推進と援助に焦点があわされている。

青少年訓練計画の対象数を削減するという政府の決定は、次のような理由で怒りをもってうけとめられている。すなわち①VACと民間部門およびMSCにとって分岐状況の広がりをもたらすものである。質のよい訓練と経験の供給を要する現実と責任は認識も理解もされていない。②カムデン・ベンチャーズのような複雑な計画をわずか実施一年後に削減する政府の行動は、パートナーとしての民間部門に対する無神経な態度を示している。③民間部門の重要性についての政府の声明と、失業青少年の訓練を供給しようと努力してきた民間機関に対する処遇との間には、まことの信頼性の上でギャップがある。

失業アドバイザー、スペンサー・ハドソン (Spencer Hudson) の活動は、主として、失業者を扱う民間部門の事業に情報を提供し、事業の発展をはかることにかかわっていた。その優先順位は、教育および訓練、自助グループの発展、失業者のための既存サービスの評価を推進し、尊厳をもって生き残る他の手段をとるに見つけ出すことにむけられていた。

VACはこの事業に最初の三年間、自主財源を充当してきた。この事業の重要性は広く認められており、失業者対策に民間部門をいかにまきこむかについて地方・中央政府はしばしば悩むというのに、このポストは最近資金不足によって空白となっている。

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

前任者 S・ハドソンはニューハム教育当局へ転職した。

VAC はカムデン青少年雇用グループの設立に積極的に活動した。いまそれを支援し続けている。八四年七月に開かれた VAC の「社会改革のための訓練」討論会で、VAC は八四年 MSC の削減を受け、また八五年にその可能性があるカムデン・プロジェクトの集金を催すように求められた。

(10) グロース・アンリミテッド (Growth Unlimited)

これは最新の VAC プロジェクトの一つであり、放棄された土地を遊びやレクリエーション用にコミュニティによって利用することを促進するものである。それは強い生態学的基礎づけをもっている。次の諸側面はこのプロジェクトにとって基本的なものである。

- ①カムデン周辺に散在する空地が多数存在しており、その一部はコミュニティによつて、オープン・グリーン・スペースとしての利用に適している。
- ②すでに多くのコミュニティ・グループがいろいろな目的のもとにこうした地所を利用している。
- ③この理念を実行に移すためには、克服すべき一連の組織的および技術的諸問題がある。
- ④このことをめぐって技術的アドバイスを提供しうる組織がすでにある。

空地指導員 (The vacant land officer) のクリス・シャリー

スミス (Chris Shirley Smith) は一九八四年四月に任命された。彼は適切な地所に近い四つのコミュニティに対して努力を集中した。彼は将来このコミュニティにも拠点をおくことを望んでいる。彼はまた放棄された土地に関係する他のプロジェクトと定期的にコンタクトをもち続けている。

グロース・アンリミテッドはまた、未使用地をよりふさわしく、もつと楽しい生活様式を創造する観点でコミュニティが利用する必要性を普及し始めた。クリスは公私およびコミュニティ・グループから成る助言委員会に報告する任務がある。ボランティアたち、とくにシャベルやくま手、くわ使いの上手な人たちの協力が求められている。

(11) 福祉権情報言サービス

この事業の主要見直し作業は一九八四年はじめに完了した。その結果、区自治体は VAC のなかで二人の福祉権担当ポストに補助することに同意した。二人のワーカー、ニック・パラス (Nick Paras) とケン・ジョーンズ (Ken Jones) は、それぞれモルデン・ロードおよびインクワイヤー近隣アドバイス・センターを拠点として、最大限早い機会に任命され、VAC が住民に提供するサービスをすでに実質的に強化している。このことは、要請されれば法廷ヘケースをもちこむことを含め、より充実したサービスを提供する二つのセンターの利用が増大していることを反映している。この事業はまた、カムデン福祉権連盟 (この分野で活動する

カムデンの全機関の集合体」とともに、VACの特別寄金によって、然料負債および特別不服申し立てに関するとりくみが続いている。

(9) プレイおよび青少年活動の訓練

アドベンチャー・プレイグラウンドや他のプレイおよび青少年活動において、VACが長年にわたって関わってきた経験から、この種の活動において最近多少みられるギャップは見分けられやすい。プレイおよび青少年活動における訓練事業は、その必要性が注目されるべき課題であるという。プレイグラウンド開発指導員 (Playground Development Officer)、「ゴードン・スターロック (Gordon Starrock)」は、可能な訓練の範囲を改善し拡大することをめざして、主導的活動にたずさわってきた。ロンドン・アドベンチャー・プレイグラウンド協会 (LAPA) と協働して、VACはプレイグラウンド・ワーカーの必要性を明確化するよう努力し、プレイ委員会の地方担当官との対話を確立し、また「資格への道」に関するプレイリーダー検討会議のための合同全国協議会の事務局の役割を果たすなどのとりくみを行った。一九八五年中には、VACは有給またはボランティアでプレイ・青少年活動に入ろうとするカムデンの人びとのためのいくつかの入門訓練事業を開始する予定である。また若者とともに活動する他のカムデン諸機関と連携して、見習い計画を設立する可能性をさぐっている。

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

4. VACのコミュニティ開発活動

(i) コミュニティ開発部

VACのコミュニティ開発部は、四つの近隣プロジェクト(ホルボーン、サマーズ・タウン、カムデン・タウンおよびウエスト・ケンティッシュニ・タウンで展開)に地域現業の基盤をもっている。一九八三・八四年度は福祉権に関する開発活動および空地利用にアプローチするコミュニティ・ワークに対して、ワーカーたちが任命され、サービスを開始するといった成果に結びついた。同年度の開発活動の主要領域はコミュニティ・ワーク・フォーラム、分権化およびVAC内部の機構・組織におかれた。同部の失業対策活動は、いま失業アドバイザーの活動が再開・助成されるかどうかの岐路に立っている。

同部部长ジョン・フリーマン (John Freeman) 氏から次のような説明をうけた。コミュニティ開発 (Community development) というのは伝統的な呼称であるが、同氏はコミュニティ・ワークといった方がいいと思っている。コミュニティ開発には二種類の目標がある。一つは住民が自分たちでものごとをなすために住民相互を結びつけていくこと、いま一つは当局へ要請する活動(提案、反対、援助など)を組織化することである。カムデンにはこのいずれかを促進する機関が多数あるが、各々で強調する側面は違っている。

カムデンのコミュニティ・ワークは複合化、多様化してきてい

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

る。コミュニティ・ワーカーは総計九〇人で、社協、コミュニティ・センター、近隣センター、福祉局のローカル・オフィス等々に配置されている。ソーシャルワーカーの資格はほとんどもっていない。

カムデンのコミュニティ・センターは全部民間で、四〇カ所ある。コミュニティ・センターには二つの機能がある。一つは教育、社会的活動の拠点を提供することである。昼食クラブ、スポーツ(バドミントン、柔道など)、レクリエーション、集会その他の場とプログラムを用意して、住民に使ってもらおう。建物の設備が重要な意味をもつ。住民をまきこむ姿勢ではやっていけない。もう一つの機能は少数民族集団センターとしてのものであり、これにはスタッフの配置が多い(質はともかくとして)。近隣センターは、建物が小さく、多くのサービス・プログラムを具備しえないが、問題集中地区のコミュニティ・ワークの拠点であり、また福祉権と住宅問題を中心とする住民アドバイス・センターでもある。福祉局関係では小地区単位でサービスを供給する傾向にあるが、ここにコミュニティ・ワーカーを配置するよう進言し、実現するようになった。

コミュニティ・ワーカーの特徴は、地域住民をいかにまきこむかを重視し、住民活動を促進することにあるが、弱点の一つは社会資源が少ないことである。各コミュニティ・ワーカーの経験交流の場としては、「フォーラム」が機能している。フリーマン氏自身、英国北部で四年間コミュニティ・ワーカーの経験がある。

(2) モルデン・ロード近隣アドバイス・センター

VACは三つの近隣センター(Neighbourhood Centre)を運営している。そのうちモルデン・ロードとインクワイヤー両近隣センターを視察することができた。

モルデン・ロード近隣アドバイス・センターは、社会保障および住宅問題を専門とするアドバイスと情報サービスを提供するとともに、公営住宅入居者組合と地域住民グループとのコミュニティ・ワークを行っている。木曜日を除いて、月曜から金曜までオープンしている。スタッフはコーディネーター一人、専任アドバイザー二人、パート二人、専任書記一人、計六人であるが、コーディネーターのジェラルド・オリヤー(Gerald Ollier)氏から説明をうけた。

センターのサービス・エリアは、主として公営住宅団地で、古い建物がこわされ、再開発が進んでいる。住宅団地は低所得世帯が多い。変動の激しいこの地域への対応として、一九六九年にアドバイス・センターが設立され、のちにコミュニティ・ワーク部門が加わって、現在のこのセンターに至っている。

センターは低所得者の問題、古い住宅団地の生活に関連する住宅・環境問題に努力を集中している。地域住民は広範な住宅問題をかかえている。それはスペースが狭いということもあるが、それ以上に当局の組織機構の問題や単純な認識不足から維持管理、改装および修理事業が遅れがちである。この地域はまた西インド諸島、アイルランド人、アジア人等々の多様な少数民族集団が居

住している。彼等の多くは肉体労働者で低賃金である。失業率は一六・二に及び、それが青少年非行(うちこわし、盗み、ひったくり、殺人、麻薬など)に結びついている。

このセンターでは心配ごと相談所の仕事とコミュニティ・ワークの仕事とをうまくセットされて活動している。心配ごと相談は特定の問題(社会保障、住宅)にポイントをおいている。住民のかかえている問題に焦点をあわせて相談を行う。住民はほとんどが年金または手当をうけている。年金・手当の制度内容は複雑・多様で、それらを住民が知ることは困難である。人びとは受けるべき権利を知らなかったり、どうやって受けるか分らなかったりするので、援助が必要となる。この地区の社会保障当局とケースごとに関与しなければならぬ。住民はこのセンターが住民に共感した立場に立つし、個々の住民が直接当局に当るよりも効果があるので、評価している。住宅問題としては、移転要求、改修要求、室内装飾要求等々があり、家賃、ガス、電気代が支払えなくなる時にも相談にもちこまれる。住宅のない家族は自治体の対応が必要だが、公営住宅に入るまでホテルに宿泊する。しかしホテルに入ったまま忘られたり、長期間待たされるケースもある。センターでは低所得世帯を特に対象としてかかわっている。個々の住民が大きな組織機構と交渉するのは非常に困難である。それで大きな機構(自治体、社会保障当局、ガス当局等)に対し、個々のニーズを代表・代弁する役割がこのセンターにある。ここでは個人のニーズをいねいに確認し、消費者(当事者)として

のニーズを充足することに努力する。時には要求が不合理なこともあるが、それはかまわない。よし不合理であっても、センターはこれをそのまま代弁していく。来所者の立場に立ちまわるといふ哲学を堅持している。相談件数は一九八四年七月の一月分で総計三七九件、内訳では第一位住宅問題(二〇五)、第二位社会保障(六三)、第三位雇用(四六)、以下情報、家族・個人、消費者問題等々と続く。

コミュニティ・ワークは、たえず集団を対象としている。コミュニティ・ワーカーは、①人びとを結びつけて、住民自身が委員会を作るよう援助するとともに、②問題対策を当局に要請したりする援助を行う。地区にはさまざまなグループがある。ほとんど自己利益をはかるグループである。時には住宅団地で自治体の対応がにぶいため、入居者組合を組織しなければならない。その問題の多くは、不適当な暖房、維持管理責任の不明確、安全保障と入口電話の不備、高層アパートの表面レンガのはずれ、危険な電気設備、室内の湿気や水滴問題であり、それに民族差別がからんでいる。この改善のために区自治体当局が責任を十分果たすよう、地域住民が入居者組合を結成し、圧力をかけていくのをセンターのコミュニティ・ワーカーは全力あげて援助するのである。入居者組合では住宅各世帯を代表する委員会が組織される。委員会は時々大きな集会をもつ。総会は年一回、全入居世帯を対象に開かれ、選挙で委員が選ばれる。総会にくる人は限られているし、選挙にしても限られている。しかし、日常的、インフォーマ

ルにはよく機能している。規約によって、だれでも委員会に参加できる。また公式的には委員会に参加しないし、大集会にもこなくても、だれでもボランティアで活動している。住民集会を開いて、意見を吸収する場も大事にしている。異った意見があっても、委員会は時間をかけて調整する。改善要求は大小さまざまで、例えば、掲示板設置要求、草のはえたやわらかい広場の要求、子ども遊具設置要求、街灯修理要求、騒音対策要求、アパートの湿気、水滴対策要求、等々がある。

入居者組合から区自治体に要求することは多種多様なので、各部局に行かねばならない。費用にしても数百ポンドから数百万ポンドにいたるまでさまざまである。全世帯の問題として、湿気のためたるアパート問題を提起し、代表を選出し、アジテーションを含め要求した結果、多額の子算を要するものであったが、問題は解決した。入居者組合は自治体、議会に納得させることが重要な仕事になる。中にはコネを使って交渉したりするところもあるが、相手のプレッシャーに負けてしまう場合もある。この地区では、コミュニティ・ワーカーは、入居者組合の委員会に出席してともに活動する。組合はしろうとしていろいろな困難をかかえている。どんな風に議論をまとめていくかがわからない。大きな機関に当るときにプレッシャーを感じる。自治体の機構をよく知らない。門前払いを食わされる等々。これらの困難に対して、コミュニティ・ワーカーの励ましと援助が必要となる。調査活動としては、入居者の要求アンケートなども実施するが、重点は実際

的な問題別の点検活動にしている。時には自治体に調査・点検が必要だということを得させることもある。自治体が大きな調査をすることもあるが、すべて自治体だけにまかせられない。自治体と民間が対立しているときは、センターが自治体とは別の独立した機関へ調査を依頼することもある。

このセンターに近いデントン団地入居者組合のリーダー、メリー・ニューマン (Mary Newman) さん宅を訪れ、話を聞いた。

デントン団地ができた一四年前に入居したが、もともと建築がずさんで、あちこち痛んできたという。一階にダイニング・キッチン、リビングルーム (応接間)、二階に寝室、バス・トイレがある。メリーさん (六九才) は養護学校の調理師をしていたが、いまは夫 (七九才) とともに年金生活者である。日本人からみると、二人暮らしとしては、ますますのスペースのように思えた。

七年前に入居者組合を作ろうということになり、議長、副議長、会計、書記をきめた。最初は少数の関心ある人が集った。もともとは住宅改修のことでインフォーマルに話し合っていて、それが入居者組合に発展した。年間に五〜六回の会合を開いている。別に総会を一回開く。二九六世帯が加盟している。六人のコミッティがいる。女性四人、男性二人である。職業別には学校の調理師、公衆トイレの管理人、オフィス清掃人、年金受給者たちから成る。会合はコミュニティ・センターで開く。会合には二〇〜三〇人しか集らない。顔ぶれはいつも同じである。入居者は会合には無関心だが、問題があると個別にメリーさんまでもち込ん

でくる。

区当局の地区出張所長と入居者組合リーダーとがテーブル会議で話し合い、多くの問題を解決につなげていった。テーブル会議には議員も建築の専門家も出席する。解決事例としては、①高層アパートのレンガがはずれかけ、危険な状態であったのを撤去させた。②ここには老人が多い(過半数)ので、その安全のために二人の管理人がめんどうをみることになった。③地下に駐車場があったが、非行少年が集って麻薬を使う場になっていた。これをほとんどなくした。いまは車を路上に置いている。合法ではないが、この地区ではよりましなので合意をとりつけた。

役員をしていて欲求不満に思うことも多いという。二ベッドルームが必要なのに、一ベッドか三ベッドしか建設されない。いろいろ要求しても解決されないことが多い。とくに改修の問題はむずかしい。区の労働組合がもう一つ熱意を示さないし、また議員は組合に遠慮しているという。それに資金がない。

近隣センターの職員は住民にとって頼りがいがあるという。いつでも、どんなことでも話しあえるし、助言もしてくれる。住宅当局、法律事務所、社会保障機関等々、各々の社会資源に要求をつないでくれる。区が近隣センターを設立したが、活動、運営は完全に民間なので、入居者の側に立ってくれる。入居者組合の会合の時などもセンターの担当職員が各戸にチラシを配る。関係者会議や諸問題の相談、交渉の場にも参加する。入居者組合の活動資金は月一〇ペンスずつ集め、二百ポンドあるが、これも担当職

員が保管している。近隣センターとその職員、コミュニティ・ワーカーには高い評価を寄せていた。

なおモルデン近隣センターでは、以上のほかに、ウエスト・グンティッシュ・タウンにおける広範な生活課題、すなわち地区住民を運営主体とする青年施設の設定、歩行者の安全、建築事業にともなう不利益の補償、環境改善、分権化およびホームヘルプや配食サービスなどに関するとりくみを続けてきた。またモルデン・ロード・助言グループでは、地区の優先課題を見分け、地区サービスの監視役として活動するためのフォーラムを提供し続けている。

(3) インクワイヤー近隣センター

このセンターはサマーズ・タウンにあり、地域住民の広範な関心事について、情報提供、地域グループへのアドバイスと支援を行いつつ、地域とともに活動している。月曜から金曜まで、午前一〇時から六時までオープンしている。四人分のスタッフが配置され、うち三人がフルタイム、あと一人分は二人のパートタイマーを充当している。個別相談二人、コミュニティ・ワーカー二人である。主としてコミュニティ・ワーカーのダイ・ジェリナス(Di Jans)さんから説明をうけた。

サマーズ・タウンは二三〇〇世帯、五千人の居住地域である。九六%の住民が公営住宅に住んでいる。親子何代にもわたって公営住宅に住み続けている。他地区へ移っていく世帯や移るところ

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

がなくて待機している世帯が増えている。ここは一八世紀から旧植民地の人たちが住み始めた。各国から来た人が最初に住むところで、後に北部に移っていく。アイルランド人は鉄道建設とともにやってきたが、いまはカムデンの北部へ移住してしまった。現在、バングラディッシュ人が人口の二〇%を占める。ほかに中国人、ギリシヤ人、黒人等が小教民族を形成している。黒人の方がアジア人より適応力がある。アジア人は相互に固まってしまう傾向があるという。

ここは低所得階層の居住地である。失業が多くて、全カムデン地区の二八%を占めている。失業問題をベースに社会問題が多発する。失業給付をはじめ社会保障給付の受給者は増大しており、制度がますます複雑化するなかで援助が必要となる。それに年金、失業手当を扱う社会保障機構は驚くほど官僚的である。官僚制の問題は地方当局も同様である。カムデン区は労働党が支配していることもあり、福祉に重点をおいている。政策を決定するのは議員であり、自治体職員ではない。選挙で選ばれない自治体職員は多数にのぼるが、彼等は政策実現のために十分動かないという傾向もある。

住宅問題も深刻である。地区の住宅対策の歴史は古く、一九世紀末には住宅供給公社が住宅建設を開始している。一九二六年以降、公営住宅の建設が本格化した。ここでは住宅の質の問題が大きい。最初に水準の低い住宅を建てると、あとで質の高いものに建てかえるには非常に金がかかる。ところが、近年の住宅対策費

の削減により、住宅ストックそのものが低下するとともに、住宅の近代化や改修プログラムが遅れたり、取消されたりしている。ここに入居者組合の積極活動への要請がある。

一八才以上の青年の問題もある。成人の青年には余暇活動対策が欠落しており、失業問題とからんで大きな問題である。地域居住者はあまり問題は起こさないが、三つの大きなターミナル駅を通して、外部から多くの人たちがやってくる。そのなかで青年の浮浪、売春、破壊行為が起きている。その他、キングス・クロス周辺の都市再開発で、多くの地元商店が閉鎖になったり、バスやトラックの不法駐車などでインナー・シティのコミュニティが圧迫されている、といった問題もある。

近隣センターにおいては、個別相談は多様化しているが、焦点は社会保障給付と住宅問題である。失業給付をはじめ社会保障給付をうけやすいよう、制度活用の援助をする。住宅の保全についても個別に対応し、当局とかけあう。アドバイザーは依頼者の弁護の役割を果たすのである。一週間に四〇〜五〇件の相談が持ちこまれる。

近隣センターのコミュニティ・ワークは、①既存の地域グループ（とくに入居者組合）を援助するとともに、②新たな課題に応じたグループ形成要求をたえずモニターしながら、組織化の開始や運営に力をそえる。コミュニティ・ワーカーとアドバイザーとはよく連携をとって、いくつも同種の問題が持ち込まれたとき、解決のための組織化をしていく。課題ごとに組織を育成していく

が、問題が解決すれば解散することもあるし、方向をかえてグループを継続していくこともある。そしてグループ間の連携が次の段階として出てくる。共通課題のとりくみに発展するわけである。年一回、祭りをやって互いに交流する機会もある。

当地区の入居者組合は活動にたけていて、ワーカーが逆に教えられている。地域課題の組織化としては、放棄地所の環境整備、バングラデッシュ補習学校の設立、婦人保健センター設置などがある。このうち補習学校については、バングラデッシュのこともたちに母国語を教えようとする親たちのグループが形成され、自主的とりくみを行いなから運動を展開した結果、教育当局から援助を得ることができた。現在コミュニティ・センターで開校されている。また保健センターについては、もともと衛生状態の悪い地域なので、住民の要求に対応して保健当局が設置しようとして七八年前約束していた。しかし地域の医者の援助が得られず、資金不足などの理由も加わって、現在そのままになっている。最近婦人グループを育てるなかで保健センターの設置要求が再燃し、住民集會が開かれた。

この近隣センターは一二年前に設置されたが、ダイさんはここに来て六年になる。ワーカーのキャリアは九年である。コミュニティ・ワーカーの場合はある程度専門職化している。三年コースのカレッジもあり、また大卒で専門教育をうけていない人は、大学院で一年間コースで勉強することで一定のワーカーの資格がとれる。ワーカーの現任訓練もある。初級から高い水準のものまで

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

多様にある。ワーカーが「現任訓練に行きたい。金が要る」と幹部職員に云えば、自分の選んだコースに行くことができる。毎週スタッフ会議をもつ。ここはマネージャーがいなくて、ティームワーカーとして互いに協力しあう仕事のやり方をしている。毎月一回、組合集會を勤務時間中にもつ。コミュニティ・ワーカーは夜の仕事がある。日中その分の休みをとる。家事と仕事の両立はむずかしいが、家庭のとらえ方、生活のサイクルの持ち方しだいだという。娘に「あなたはだれ？」ときかれるほど忙しいそうである。

(4) ミルマン・ストリート・コミュニティ・ルームズ

ここはVACに所属する二つのコミュニティ・センターの一つである。いずれもホルボーンにある。このセンターは公営住宅フラットの地階のワン・フロアーを使用している。センター・オーガナイザーのスウー・ミルン (Sue Milne) さんから説明をうけた。スタッフは彼女のほかにパートタイマー一人、調理二人がいる。グループ指導のためには各種専門家(たとえば絵画)を委嘱する。部屋は広く、カーテン・ドアで三つに分けられている。

このセンターは主として老人のランチ・クラブ、身体障害者のデイ・センターの機能を果たしている。ランチ・クラブには三五人の老人が月曜から金曜まで毎日くる。費用は一人一回二七ペンス、あとの実費は区が負担している。身体障害者は一五人、週に三回、小型バスの送迎サービス(二人の運転手を区が雇用)をう

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

けて通い、陶芸、縫物、編物、タイプ、ボードゲームなどを楽しんでる。利用者の年齢は二六才から九三才まで幅が広いが、平均して七〇才以上が多い。障害者は脳卒中後遺症、関節炎、視覚障害、心臓疾患などの障害をもっている。彼等はすべてカムデン第一エリアの社会サービス・チームの対象であるが、センターはこの障害者グループにコミュニティ・ベースを提供している。

老人、障害者のほか、多様な住民グループがセンターを利用している。週二回、赤ちゃんとお母さんのグループが組まれ、講師の話をきいて勉強し、お互いの体験談を話し合うなどしている。月曜の夜には精薄者のヨガ・グループが開かれる。水曜日はこのフラット入居者が会合に使う。木曜日は少女のクラブがある。金曜日は離婚婦人の自主組織が話し合いをもつ。週末には各ボランティア・グループ、瞑想グループ、平和グループ、入居者のことも誕生会、結婚披露パーティ等の利用がある。このほかバドミントン・クラブ、五才以下の遊戯体操、空手等々のスポーツにも利用される。借室料は一回二五ペンス。自主組織以外は必要に応じスタッフがグループ運営指導をする。

このセンターに隣接して、放置地所が区当局により庭園として整備され、コミュニティに管理委託されている。センターはVACの所属でスタッフもその配属であるが、センター運営は入居者組合を主体とする運営委員会が当たり、ルームと庭園の管理、利用をとり仕切っている。

このセンターはもともガレージであったが、それを改装し、

四年前に開設された。当時入居者たちのため週二回夜間使っていたが、昼間も使いたいという要求があった。他地区のコミュニティ・センターに行かずともいいようにとVACに入居者組合が要求し、実現した。近辺は定住者とくに老人が多く、顔見知りばかりで、みんなで計画していける利点があるという。障害者の利用については、一〇〇〜一五〇人規模の障害者グループに参加していた人たちから、小地区で活動したいという要求が出てきたので、入居者組合がそれをとりあげ、実行に移した。

センターのキャッチ・エリアは数千人である。居住地域というより、ワーキング・エリアで昼間人口が多い。ロンドン大学の学生や三つの病院の看護婦たち、運転手や新聞社関係の労働者も住んでいる。定職があり、賃金もよい労働者が多いので、社会問題とは他地区ほど深刻ではない。そのためセンターではレジャー・タイムのとりくみを中心とする。現在、若い母親と赤ちゃん、老人が交流し始めているが、障害者と健常者の交流をもはかかっていく意向のようである。

5、VACの先端諸活動

(1) プレイおよび青少年活動

A・プレイおよび青少年活動部

部の主要関心事は、区内の若者のための備えを改善しようとする。ならびにレクリエーション、教育、社会的あるいは雇用機会の不充足により危機状況におかれた児童・青年に対して格

別の注意を払うことである。部の地域現業は、三つのアドベンチャー・プレイグランド、各一つの青少年訓練計画、移動保育サービスおよび家のない家族援助プロジェクトを基盤としている。ゼロ才児から二四才までをカバーするサービス・プロジェクトを有しているのである。このほかビデオや搬送車など活動資源の貸出しを行っている。また部のスタッフは青少年活動の運営や開発に関するあらゆる事柄に助言を行ったり、実際に参加したりしている。同部長、ジム・スミス (Jim Smith) 氏から各プロジェクトについて説明をうけた。

B・カムデン・ベンチャー・ズ

これは青少年の職業訓練プロジェクトであるが、一九八四年二月、青少年訓練計画地域ベースプロジェクト分を五〇〇万予算削減するという政府の発表によって、カムデン・ベンチャーも訓練定数を八〇人から四〇人へ、スタッフを一七人から八人へ削減されることとなった。政府国会への集中的働きかけ、広範な関係各方面からの抗議にもかかわらず、政府は決定を修正しなかった。その結果、カムデン・ベンチャーのうち、ブライト・ステイール (軽工業技術作業場) およびスプリンターグループ (大工・さし物職作業場) を八月末までに閉鎖しなければならなくなった。

区議会は同情を示したが、現状では予算の肩代りもできなかった。GLCの訓練委員会は本ベンチャーズを高く評価し、過去に援助もしてきて、やはり同情的だったが、GLCの予算支出を制限しようとする政府の決定によって、このプロジェクトのような

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

多くの零細な計画ははじき出されてしまった。

こうした削減はすべての関係者の志気をひどくうちめした。二つの作業場、四〇人の訓練定数および九人のスタッフ・ポストの喪失は、VACの歴史始まって以来の人員剰問題をひきおこした。カムデンにおける青少年の失業は増大を続けている。現在、一六〜一八才グループでは三〇〇をこえている。しかもスプリンターグループでの訓練生の九〇〇は、一年間の訓練ののち、正規の雇用や訓練学校に進むという実績があるのに、二つの作業所は閉鎖されてしまったのである。

残りの二つのプロジェクト、すなわちステッピングストーンズ (コミュニニティ・サービスの訓練と経験を提供) およびプリントアウト (事務技能作業所) は、一九八五年七月までMSCから資金援助がある。これらは一六〜一七才の青少年四〇人を対象としている。彼等は一人一週間に二五ポンド政府から訓練手当をうける (失業手当より少ない)。事務技能作業所では、一般事務技能、コンピューター、レイアウト、印刷技術、地域のためのタイプ等の訓練を行う。コミュニニティ・サービス訓練では、地域の中の組織において青少年が働いてみる機会を提供する。その場は、保育所、ユースクラブ、コミュニニティ・センター、老人センター、チャリティ・ショップ、ミュージック・ショップ、アートワーク・センター等である。週に四日実習し、五日目にメイン・オフィスに帰る。地域の中で三カ月活動し、一年間の訓練をうけた後、求職指導がある。訓練生の半数は仕事が見つかる。残り半数は大学

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

へ進む。

C・アドベンチャー・ブレイグランド

三つのブレイグランド活動(於ケンティッシュ・タウン、サマーズ・タウン、ハムステッド)は、三才から一八才までの子どもたちを対象に、遊び集団を組織する。一部はスタッフ、一部は親によって運営される。それぞれセンター(play hut)があり、いくつかの部屋に分かれていて、各種の活動が行われる。その外部はアドベンチャー・グラウンドで、木で作った大仕掛の遊び道具が備わっている。一九八四年は各ブレイグランドの古い建物(一五年〜二〇年)の建て替え工事があった活動が大きく妨げられた。

プログラムとしては、三カ所それぞれ異なるが、デイリー・ブレイグランド、よちよち歩きの子どもたちと親のグループ、学童保育(ミニバスで子どもをピックアップし、一八時頃まで遊ばせる。親が迎えに来る。無料)、ユース・クラブ(一三才〜一六才、コーヒーパー、ピンポン、アイススケート、キャンプ、木のぼり、ボートなど)、失業ティーン・エイジャーの土曜午後立ち寄りクラブ、場外プログラム(旅行など)、移動サマー・プログラム、タウン祭りへの参加等々がある。絵画、写真、工作などのプログラムは教師や若者が来て利用することもあり、ローカル・スクールの役割も果している。各ブレイグランドには五人の専任スタッフ、三〜四人のパートタイマーが配置されている。

D・アデレード・ロード・ホームレス家族センター

このセンターは、ハムステッドの公営ホームレス家族宿泊所に

隣接している。地方当局はホームレス家族(永続的居住の場をもたない家族)に対して臨時の短期宿泊所を提供し、数カ月そこに入居させた後、一般アパートに移す。失業者家族、少数民族家族が多い。このセンターは、ホームレス家族宿泊所に住む多数の五才以下児を援護する活動が必要だ、との認識から生まれたプロジェクトで、アーバン・ユンドの資金援助で運営されている。センターには大小のホールといくつかの部屋(教室)がある。スタッフは専任二人。

プログラムにはデイリー・ブレイグランドをはじめとする子どもたちのための諸活動のほか、家族に対する生活相談、情報提供および援助のための会合(関係機関専門家が来所)、バングラデッシュ婦人グループ、英語教室、料理講習、美容体操などがある。居住者のプログラム参加と自主決定、相互交流が奨励されている。

宿泊所の改修工事が行われている間に、一部の地下室に無断で居ついてしまった人たちがそれを占拠し、商業ディスプレイを始めるなどして、さわぎとなったが、彼等は別の臨時宿泊所に移された。

E・カムデン・ブレイボックス

これは移動保育サービス(a mobile creche service)を提供するものである。おもちゃと設備、ワーカーたちを乗せた車(car)が、お母さんたちの研修会や会議、文化・スポーツ行事への参加を保障するため、現場へ出むいて子どもを一時預りを行う

のである。要請があればウィークデイ、夜間、週末を問わず出むいていく。広範なグループに利用され、年間二五回出勤した。ロンドンで最も成功した質の高い移動保育プロジェクトの一つだといわれる。需要は高く、事業拡大の計画がある。自動グループで保育活動を開始しようとするむきには個別の情報提供と助言を行うが、その形修計画もある。プロジェクトワーカーは専任三人である。

F・メディア・リゾーセス

青少年活動団体に対し、オーディオ、視覚器材、バッヂ製造機をきわめて低額で貸出している。部では二台のミニバスを所有しているが、プレイグラウンドで使っていないときに、民間団体に貸出している。

G・スクラウンジ・プロジェクト

このプロジェクトは、ボランティアのゲイビン・ハンター(Gavin Hunter)氏がコーディネーターとなつて、建設会社、出版社、おもちゃ製造業者その団体とコンタクトをつけ、部の各プロジェクトとその子どもたちにも有用な建築、遊びおよびアート資材を獲得しようとするものである。最新のプロジェクトであるが、すでに千五百ポンド相当の資材寄贈がある。

(2) カムデン・ボランティア・ビューロー

ボランティア・ビューロー(VB)は、カムデンにおいて必要な多種多様なボランティア活動に関する正確・最新の情報を以

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

て、ボランティアとプロジェクトとを最初に結びつける役割がある。スタッフは専任二人、パートタイム二人。オーガナイザーのバット・オウエル(Bat Orwell)さんから説明をうけた。

VBにコンタクトをとり、アドバイスと情報を求めるボランティア志望者は、一カ月約一三〇人である。またボランティアを必要とする自分のところの仕事について、月間一〇〜一二プロジェクトから電話照会がある。VBでは子ども、老人、障害者、刑余者、環境保存等々、一五〇プロジェクトを用意し、ボランティア活動に結びつけている。結びつけたボランティア数は年間千二百人である。

VBから情報、アドバイスをうけたボランティア志望者は直接プロジェクト先に出向き、話し合い、訓練をうけて活動に入る。プロジェクト側はボランティアを援助し、訓練する責任がある。VBの役割の一つは、プロジェクト側のボランティア・オーガナイザーを集めて研修する場をくり返し提供することである。なお数年前から失業者が失業手当をうけながらボランティア活動をすることが許されるようになった。またあらゆる事故にそなえて、ボランティア保険がある(本人は掛金を払わない)。

VBはスタッフが少ないので、たいいて書類送付によって連絡をとってきた。しかし、間もなくコンピューターが導入されることとなり、書類業務の簡素化とサービスの改善が期待されている。コンピューターの導入は英国二九五VBのなかではじめてである。コンピューター導入により、①志望活動、時間、都合のよ

い活動地域、技能等々の基準にもとずくボランティアとプロジェクトとの調整、②プロジェクトとボランティア・オーガナイザーの最新ファイルの維持、③短期活動待機ボランティア名、特定分野で活動する全グループ名の適出、④郵送あて名、住所のプリント・アウト、⑤ワード・プロセッサ機能、⑥各種統計分析によるVB事業のモニター、が可能となる。

ボランティアに大きく依存するプロジェクトは増加し続けている。たとえばカムデン犯罪犠牲者援助協会 (Camden Help for Victims of Crime) は、二人のパートタイム有給ワーカーが、犯罪犠牲者に対する短期の実際的、対人援助を行うボランティアを三〇人組織している。またカムデン・コミュニティ・ドライバーズ協会 (Camden Community Drivers) は、一人のパートタイムワーカーで二人のボランティア運転手を組織している。

一九八三/八四年度において、VBの新規プロジェクト開発事業は、スタッフ不足と資金援助の不安定性から縮小された。そのため、老人、障害者および単親家族に实际的援助を行うボランティアを派遣することもできたはずの、VBの「片手間の仕事」(Odd Job) 計画をフォロー・アップできなかった。地域の企業や慈善団体の寄付で、ワーカーに六カ月間給料を支払う資金を造成したが、レート・キャッピングの見通しははっきりするまで、事業を開始すべきでない」と決定せざるをえなかったのである。

ボランティア活動の推進が地方・中央で政治的用具となっていくが、政策立案者としては、ボランティアは有給職員の補完的役

割を担うのであって、肩代わりでもなく、安上がりの労働でもないことを銘記すべきだ、とVBでは強調している。

(3) カムデン近親死別者サービスマン (Camden Bereavement Service)

ビリーブメント (Bereavement) とは近親者を失ったことをいう。ここではコーディネーターのアイリーン・ウォーカー・スミス (Aileen Walker-Smith) さんから説明をうけた。サービスマンとは、四五才以上の人、また夫をに先立たれた女性が多い。子どもを亡くした親もかなり含まれている。三分の一は母子家庭だが、近親者を失うケースは多様である。援助サービスマンの要請は、本人、友人、家庭医、ソーシャル・ワーカー、訪問保健婦、教師などから持ちこまれる。年間ケースは九八人である。

要請に応じてボランティアが接触を開始し、本人の同意を得れば個別家庭訪問を行い、話しをよく聞いてあげる。週一回で開始し、やがて月一回に減らしていく。一年間継続のケースが多いが、場合によってはそれ以上、一五カ月以上継続して訪問し、見守っていくこともある。現在、二人のボランティア(一人は男性)がいる。カウンセリングの資格をもっている人や近親者遺族当事者を含めて、ボランティアの背景はさまざまである。

ボランティアが活動を開始する前に、半年かけて訓練する。その上で実践を継続していくと質のよい援助ができる。月に二回、ドクターの指導のもとに訓練と話し合いが行われる。最近、近親

者遺族の二つの自主組織（老いた婦人、若年母親）が形成され、援助している。専門機関、社会資源の活用を行っている。ここはピリブメントの情報センターでもある。

このサービスは一九六九年に開始された。VACCの内部事業として位置づけられているが、関係機関としての警察、赤十字、犯罪犠牲者組織、心配ごと相談所、VACCなどにより運営委員会が構成されている。二人のパートタイマーが交代でフルタイム事務に当たっている。資金はすべて民間ベース（社協、チャリティ）である。

(4) カムデン・サイコセラピー・ユニット

このユニットは、カムデンで居住もしくは働いていて、情緒的・心理的困難をもつ人たちに対し、無料の治療を提供している。コミュニティやソーシャル・ワーカーに対する助言的役割をも果たしている。五人のパートタイムのサイコセラピストと書記が常時約四〇ケースを処理している。電話一本の約束で来所できる。需要は増大しつつある。現在スタッフはカムデンの麻薬問題の増大に対するとりくみに向けて、何をなしうるかについても検討中である。

6、若干のコメント

(1) VACCの特性

カムデン社協VACCは、都市型社協CVSの一つであり、ロンドン・カムデン社協の組織と活動

ドンの都心部において、貧富の差が激しく、失業、青少年問題、少数民族差別等の深刻な社会問題をかかえる地域を基盤としている。

VACCはロンドン・バラ・オブ・カムデンのエリアに対応する区社協であるが、その区は、わが国の東京都特別区のような半自治体でもなく、ましてや指定都市の自治権をもたない行政単位・機構でもなく、完全な自治体である。区人口は一八万人であるから、わが国指定都市の行政区の人口規模と比べても、さほど大きいわけではあるまい。

だがそのVACCはスタッフ八五人を擁する大きな社協である。人口百万を超えるような東京都特別区ならいざしらず、一八万人規模程度の区社協で、これだけのスタッフを擁するところはわが国にはない。同規模の市部でも同様であろう。

規模の大きさだけではない。VACCは、一世紀以上にわたる社会改良運動、民間福祉活動の伝統を背景として、草の根から生み出され、創設八〇年の歴史を経ている。その民間自主の心意気はVACC、すなわち“Voluntary Action in Camden”という名称に表現されている。そして積極活動を展開し、実績をつみ、関係者・住民の一定の評価を得ている。残念ながらわが国の社協が戦後上から作られ、民間自主の気風が乏しい事情と対照的である。

(2) 組織・財政と公私関係

VACの組織機構では多様な加盟団体を擁しているが、その構成内容はわが国の場合と異なる。会長は自治体首長であるが、組織運営の民間自主性を守るシステムは工夫されている。名誉・象徴的存在とはいえ、民間人会長でないことは気にかかる点である。

組織機構は簡素で機能的といえる。ポリシー作成グループ（役員）、スタッフ・グループあるいは職員労働組合とのコミュニケーション・ルートが公式に確立していることは注目される。スタッフは行政の天下りなどは皆無で、民間精神の旺盛な女性局長のもとの、中堅、若手、女性が活躍している。とくに女性の活躍は役職員ともにめざましく、執行委員会メンバー二六人中一五人、スタッフでも過半数を占め、重要なポストを得て活動している。給料が自治体職員と同一というものも優秀職員の確保につながっている。しかし、パートタイマーにかなり依存していること、プロジェクトの期限や打ち切りによって身分が不安定な面があること、必ずしも専門職が確立しているわけではないことなどは問題点であろう。

財政では公費補助に大部分依存しているのは、わが国の場合と同様である。それでいて民間自主性はそなわれず、むしろ公費補助は民間自主活動を保障、促進する条件整備としてとらえられている。しかし、行政の予算削減、プロジェクト補助の打ち切り等によって、民間活動の財政基盤は今後不安定性を増すものと予測される。したがって民間自主財源の増強がさし迫った課題とな

らう。

公私関係については、区自治体とは『建設的提携関係』を保持している。しかし他方では問題対策の不備や『官僚機構の弊害』に対する批判を行い、解決を迫る活動も展開しているから、『批判的協力関係』でもあるといえよう。国に対してもプロジェクトの補助、実施を通して、提携関係に立ってきたが、昨今のプロジェクトの削減、打ち切りの強行によって、民間側の国に対する信頼関係は急速に薄れている。その提携関係は再検討せざるをえないとまで警戒心をよびおこしているのである。

(3) 事業活動

事業活動では、社会問題の広がりや深まりに対応して守備範囲は広く、その事業形態も直接サービス、グループ活動、地域組織化、福祉組織化、ソーシャル・アクション等を含み、多面的である。また事業活動のなかに多くの公費補助によるプロジェクトが含まれている。これは民間特有の主導性、創意性などの機能を活用して、より効果的に事業展開を期すため、契約により公費補助で活動費用を裏づけるもので、単なる安上がりのための行政委託ではない。これには公私間の信頼関係が前提となっている。

媒介的役割の一環としてのレイトキャッピング反対活動、GLC廃止反対活動は、民間活動への重大な影響を懸念して、自治体との共同戦線を組んで展開された。民間サイドのぎりぎりの政治的立場の表明、選択行動として興味深い。

VACは失業対策活動に大きな力を注いでいる。失業の問題がいかに深刻かを物語っている。しかも効果をあげていただけに、プロジェクトの半減を余儀なくされたことは、VACにとって一大衝撃であつたらう。青少年を中心とする失業対策活動は、わが国社協ではみられないが、今後経済事情の変化によっては、切迫した課題にならないとは限らない。

放置された土地をコミュニティが利用するプロジェクトが組まれるというのは、土地高騰に悩むわが国では考えにくいだが、オーストラリアの創出や空地利用がもつととりくまれてよい。

福祉情報報告ポストが区自治体の補助により近隣センターに配置されていることは、住民の立場に立って「福祉権」を守る弁護活動を行政府自ら重視していることの表れである。

民間団体のための給料管理サービスや資源センター、政府プロジェクトの紹介などはVACの媒介的役割の好例である。また助言グループとしてのフォーラム方式も注意をひくが、各種研修プログラムについては、意外に少ない。

コミュニティ開発については、住民のグループ活動、デイサービス、交流の拠点としてコミュニティ・センターが設置され、一方ではアドバイス・センターとコミュニティ・ワーク機能を併せた近隣センターが問題集中地区に設置されている。これらほもともと区自治体が設置したものであるが、運営・活動はVACの主體的とりくみに委ねられている。住民の立場を貫く視点で相談活動とコミュニティ・ワークとが結びつけられ、自主組織の形成と

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

ともに、対行政アクションが展開されているのはみごとである。わが国社協ではいまだこのようなとりくみは困難である。また問題集中地区や貧困をはじめとする切実な地域問題への挑戦そのものが乏しいのではないか。

なおカムデンでは、わが国の地域綱羅組織としての町内会、自治会は存在しない。そこで住宅団地では任意加入の入居者組合が要求結集の機能集団として組織化される。またわが国のような小地区社協（校区社協など）も存在しない。集団包摂志向の強いわが国の国民性と個人主義志向の強い英国の国民性の相違によるものであろうか。

ブレイ・青少年活動は、わが国社協ではとりくみが弱くなっている分野である。都市部ではアドベンチャー・ブレイグラウンドの活動が参考とならう。また母親の集会・行事を保障するための移動保育や資源調達方式としてのスクラウンジ・プロジェクトも注目されよう。

ポランティア・ビューローについては、プロジェクト側の研修が重視され、またポランティアの受け入れと訓練はプロジェクト側の責任で行われていることなどが印象に残った。人員不足はいつでも同じであるが、ポランティア・ビューローのコンピューターの利用はわが国でも急速に進むであろう。

近親死別者サービスは、英国ならではの活動に思えたが、訓練されたポランティア活動の好例としても興味深い。サイコセラピー・ユニットの試みも、わが国社協では精神衛生対策が欠落して

ロンドン・カムデン社協の組織と活動

いるだけに示唆に富む。

以上にみられるように、VACはわが国社協のいずれの側面をとってもかなり異質であり、その意味であまり比較にならないかもしれない。しかし、VACは民間自主活動を貫く社協の姿勢、実績としては、わが国社協の状況からみれば一つの到達点を示しているように思われる。そのなかのさまざまな努力、試みはもとより、共通した悩み、問題をもあわせて、VACから学びたいとは少なくともいえる。

付 記

この視察研究をアレンジし、種々アドバイスをして下さったN CVO局長(当時)ニコラス・ヒントン氏、次長(当時)ロイ・マンレー氏、その秘書ジェニー・サルバドリさんに心から感謝申し上げます。

またカムデンでは視察研究の受け入れ、日程のアレンジ、懇切なインフォメーションとアドバイス、その他必要な労をとって下さったVAC事務局長バム・ウォレンさんをはじめ、各事業活動について詳しく説明して下さったスタッフの方がた、また関係者の皆さんに有難く厚く御礼申し上げる次第である。そしてこの報告が大変遅れたことをお詫びしたい。

なお本稿は、共同視察研究者、高木和美さんの了解を得て、筆者個人の責任において執筆した。ヒヤリングの筆記、コメントの提出等、協力いただいたことを感謝し、付記するものである。

参考・引用文献資料

- London Borough of Camden, "Official Guide".
- Voluntary Action Camden, "Annual Report 1983/1984".
- The Camden Council of Social Service, "CCSS News, July 1984".
- Voluntary Action Camden, "Press Release". (10th October, 1984.)
- Camden Community Work Forum, "Camden Community Work." August 1984, and other pamphlets.